

JA筑紫農産物品評会 2021



JA筑紫は、12月1日にJA本店で、農産物品評会2021を開きました。JA管内の生産者が出品した野菜や果実、花きなど460点から、優秀賞20点、優良賞30点を選出。

2日に行った表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた常住忠宏さんをはじめ、特別賞を受賞した生産者16名のうち8名を表彰しました。表彰式は、例年JA収穫祭「ふるさとまつり」で行っていますが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、単独での開催となりました。

松田専務は「生産者の皆さんのおかげで例年通りに開くことができました。コロナ禍で大変だと思いますが、これからも健康管理に十分注意しながら農産物を育ててほしいです」と話しました。

品評会は毎年、JA管内の農畜産物の技術改良や商品性の向上、消費拡大を図る目的で開いています。福岡農林事務所福岡普及指導センターの今泉美紀センター長を審査委員長に、審査委員12名が品種の特徴や揃い、品質、商品性などを審査しました。

女性部が冬料理講習を開催



JA筑紫山家支店女性部は12月9日、冬料理講習を開きました。新型コロナウイルス感染防止対策として、例年とは違った持ち帰りできるメニューを企画しました。

講習会には、女性部員10名が参加。今回のメニューは、JAグループファミリー雑誌「家の光」の記事を活用した「コマツナとツナのゴママヨサラダ」や「大学イモ風」など3品。部員達はメニューを分担し手際よく調理しました。

第66回筑紫地区農業祭



太宰府天満宮で12月12日に、第66回筑紫地区農業祭が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からJA理事や管内の農業関係者などの代表が参列。農業の発展と五穀豊穡（ほうじょう）を祈りました。

祭典では、巫女（みこ）による神楽奏上や、参列者の玉串奉奠（ほうてん）などで収穫の礼を尽くしました。

式典では農業振興に貢献した功労者6名を表彰。笑顔で表彰状と記念品を受け取りました。功労者を代表して那珂川市の藤木六右工門さんが「この受賞は大変励みになります。今後もさらに農業に精進していきたいです」と挨拶しました。

JAの白水組合長は「歴史ある農業祭を後世に伝えていけるよう、今後も農業振興に取り組んでいきたいです」と話しました。

組合長たちに感謝を贈る



白水組合長とJA職員は12月14日、春日市立大谷小学校を訪れ、児童たちが開いた「感謝の会」に参加しました。

白水組合長や職員が年間を通して田植えや稲刈りなど米作りを教えています。今回、児童が組合長たちに向けて感謝を表す催しとして開きました。例年は、10月に収穫した米を児童と一緒に味わっていますが、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感謝の会のみの開催となりました。

組合長たちは児童が考えたレクリエーションを楽しんだほか、米作り指導のお礼として準備した楽器演奏や、感想文をまとめた文集を受け取りました。児童は「農家の方の大変さなどを知ることができました。これからもお米一粒一粒を大切に食べたいです」と話しました。

白水組合長は「米作りの授業が農業に興味を持つきっかけになると嬉しいです。これからもお米をたくさん食べてください」と笑顔で話しました。

この授業は、5年生を対象とした「総合的な学習の時間」の一環。JAは児童の食農教育をサポートする目的で、20年以上関わっています。

被災した地域へ義援金を贈呈



JA筑紫は12月15日、被災した地域の復興を支援するため、義援金をJA福岡中央会へ届けました。義援金は、JA筑紫が組合員や利用者などを対象に開いた「ふれあいゴルフコンペ」の参加費の一部と合わせたもの。JA筑紫の白水組合長が、中央会の乗富幸雄会長へ手渡しました。中央会を通して被災地へ送られます。

白水組合長は「組合員と利用者が協力してくれた義援金を少しでも役立ててほしいです」とあいさつ。乗富会長は「寄付していただいた皆さんの思いが集まった義援金を大切に使用させていただきます」と謝辞を述べました。

安全安心まちづくり・12年連続受賞



JA筑紫は、「筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会長賞」を12年連続で受賞しました。

これは、筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会などが主催。一人ひとりが地域安全運動の担い手として、犯罪などを抑止することを目的としています。昨年同様新型コロナウイルス感染拡大の影響により大会は中止になり、筑紫野警察署で表彰式を開催。JAの白水組合長は筑紫野警察署の古江昌親署長から表彰状を受け取りました。

JAは、2008年度に「JA筑紫安全安心まちづくり隊」を結成。青色パトロール活動や各金融店舗職員による地域みまもり活動などを積極的に行っています。また、組合員向けのJA広報誌「ふぁみーゆ」に毎号、安全安心まちづくりについての情報を掲載しています。今回の受賞はこれらの活動が評価されました。

フラワーアレンジメントを楽しむ



JA筑紫大野城支店女性部は12月24日、大野城支店でフラワーアレンジメント講習会を開きました。女性部員36名が参加。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、時間ごとに区切り2部構成で行いました。

今回は、松や柳、ユリなど8種類の花を使った正月用のフラワーアレンジメントに挑戦。JA女性部員を講師に、アレンジメントのポイントなどを教わりながらそれぞれ作品作りを楽しみました。

教育ローン成約分を子ども食堂へ寄付



JA筑紫は12月28日、大野城市の認定NPO法人チャイルドケアセンターへ教育ローン成約件数に応じた寄付を行いました。JAの白水組合長が、法人の大谷清美代表理事へJA農産物直売所ゆめ畑商品券(7万5千円相当)を手渡しました。

JAらしい地域貢献活動として子ども達の成長に貢献したいと、教育ローンの成約件数に応じた寄付を5年間続けています。今回は、2020年10月1日から21年5月31日までの「めざましごはん教育ローンキャンペーン」の成約75件分。

認定NPO法人チャイルドケアセンターは、子育てのための情報とネットワークづくりをサポートする団体。JA管内5市の56カ所で、地域で暮らす大人や子どもを対象に、ボランティアが食事の提供や交流する場「子ども食堂」を設けています。

大谷代表理事は「筑紫地区の子ども食堂にJAの取り組みを伝え、商品券を渡したいです」と話しました。

白水組合長は「将来を支える地域の方々や子ども達のために使っていただけると嬉しいです」と笑顔で話しました。